

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2004年6月
No.35

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

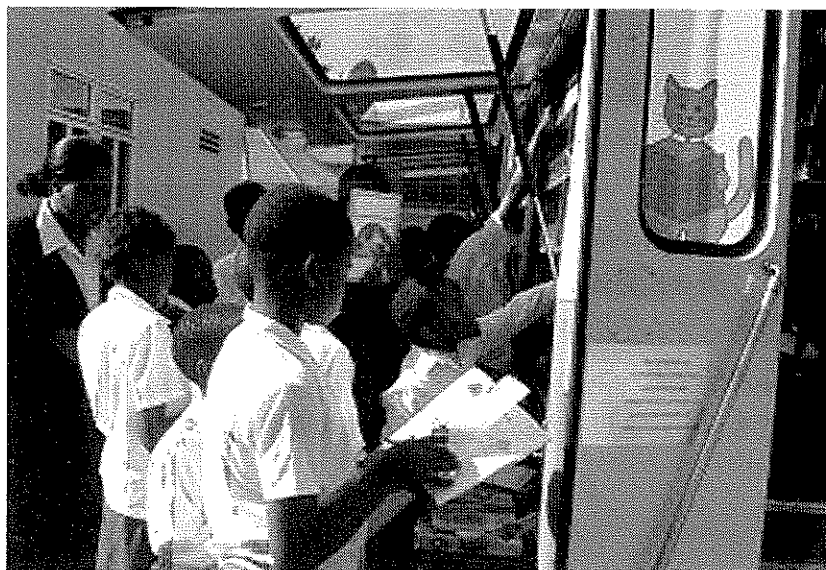
Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2004年6月の報告と予定

- 1月 南ア連絡員南アへ戻る
- 2月 JICA事業HIVピア教育ワークショップ
- 2月 南ア各州図書館会議に出席
- 3月 南ア・デベトンのMEIへ本 3822 冊送付
- 2月～4月 インターナショナルスクールより本引取り
- 4月 河合塾が全国へ呼びかけ本を 27,829 冊収集
- 5月 HIVピア教育学校訪問
- 7月 南ア連絡員一時帰国

目次

HIV/AIDS ピア教育プロジェクト・ワークショップ	2
2003 年度移動図書館報告 No. 1～No. 5	5
移動図書館報告の感想	8
TAAA の活動に参加して	8
日本の若者が見た南ア	9
2003 年度会計報告	10
主な活動	11
寄付・会費・本などを下さった方々	12



移動図書館で本を探す子どもたち ハウテン州

JICAとの協力事業 インドゥエドゥエ地域の学校におけるHIV/AIDSピア教育プロジェクト ワークショップレポート



南ア在住連絡員 平林 薫

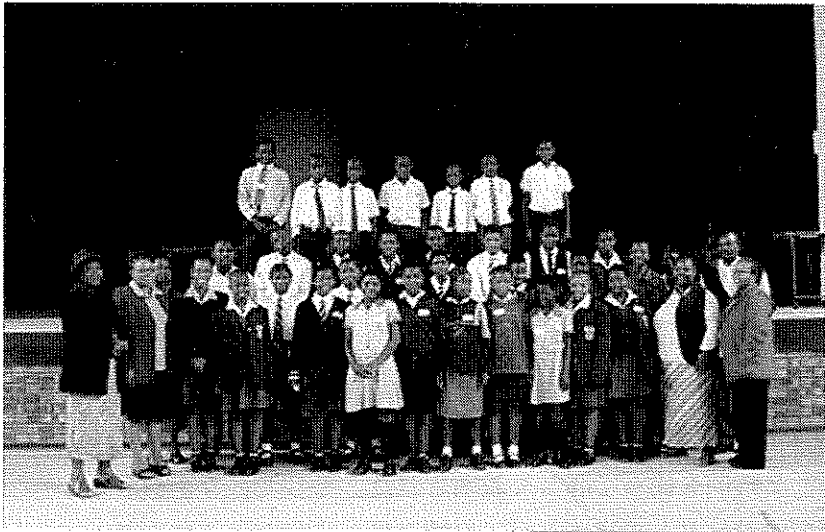
ピア教師ワークショップ第一部（INSUZE-NOODSBERG 地区）が4月21日から23日までアップルボッシュ・カレッジにて行なわれた。ここはインドゥエドゥエでも奥まった地域で、ダーバンから100キロ強、山道なので一時間半かかった。アパルトヘイト当時、ダーバンの大学に通えなかった学生のために、このカレッジが創設された。現在は閉鎖され、ワークショップなどに利用されている。

目を見張る生徒の集中力

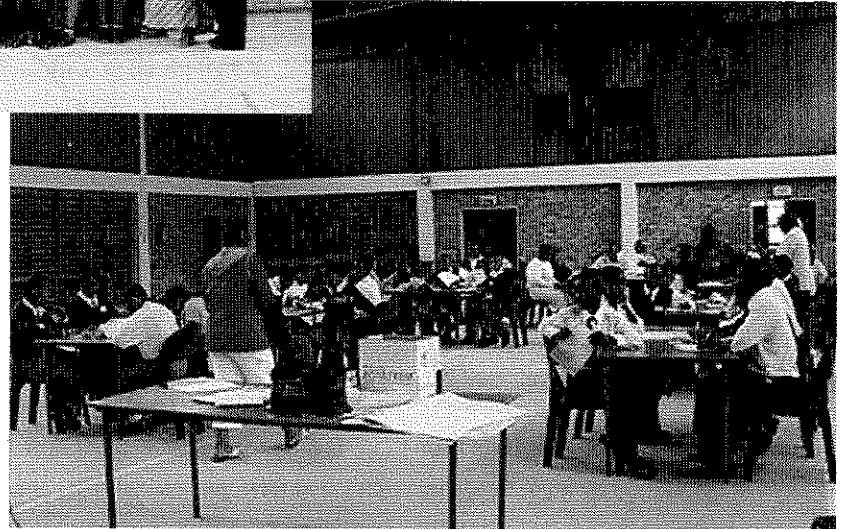
今回のワークショップは7校から教師10名、ピア教師29名の参加となった。参加教師の自家用車とミニバスが手配された。お祈りとゴスペルの斉唱で始まる。ワークショップに参加するにあたってのルールと心構えを生徒達がそれぞれ発言していく。授業はズールー語で行なわれるのだが、先生の質問が英語の場合、生徒達も英語に切り替える。参加学年はグレード5-9、年齢は11-15歳。11歳には難しい部分もあった。各校から選りすぐられた生徒達だけあり、授業に対する取り組みも真剣である。一科目一時間の集中力は目を見張るものがあった。先生方の授業も生徒達を積極的に参加させるものであった。ワークショップのための十分な準備をしてきたことがうかがえる。

人と人との関わり合いについて話し合う

初日の最初の授業は“RELATIONSHIP”家族、友人、恋人達とどのような関わり合いをもっているか、そしてどのように関わっていくべきかを話し合った。2時間目は“GENDER”男女の違いと役割についての授業は白熱したものだった。女子16名、男子13名。女子生徒がより積極的に発言をしていた。伝統的に男性優位といわれているズールーの社会もかなり変わってきているという印象を受けた。ここでランチに入るが、学校の給食が一日の主食になっている子供もいると聞き、生徒達にもランチをとらせることになった。3時間目は“権利と責任”について話し合われた。これは難しい内容であるが、生徒達は家族の一員として、学校での生徒としての自分達の権利と責任をしっかりと把握していた。そして4時間目は“身体の変化”についての講義。ワークショップ全体を通して、当然身体や性に関する話を中心となるが、生徒達は恥ずかしがらず、ふざけることもなく、先生の話をよく聞き、発言していた。すでにライフスキルの授業で学んでいたようで、かなりの知識をもっていた。最後に今日の授業全体を通しての質問や意見を交換し合った。これは白熱したディベートとなり、この年代の日本の生徒達はこんなに積極的に意見を交換し合えるだろうか、と思った。お祈りと国家の斉唱で初日を終了した。



ピア教師ワークショップ 記念
04. 2



ピア教育の授業風景
04. 2

問題解決への道

2日目はお祈りの後、簡単なゲームで生徒達の目を覚まさせた。最初の授業は“ABUSE”子供への虐待から、麻薬の濫用まであらゆる ABUSE について話し合われた。チャイルドポルノなどの現状や、麻薬の弊害の説明があった。2時間目はピア・プレッシャーについて、短いドラマを作らせ発表させた。クラスメートや友人達の与える影響の大きさを、学校生活の中の一場面を再現することで、改めて認識するというものである。15分の準備時間に内容を考え、セリフと動きまで決めてしまう創造性に感心した。一つのグループは無理やりギャンブルに参加させられた男子が取っ組み合いの喧嘩をするシーンまで登場した。どのグループも、毎日の生活の中で友人達の果たす役割が大きいことを表していた。教師は、家庭やコミュニティー、学校や友達の中において、自分のアイデンティティーをしっかりと認識、確立することが大切だと話していた。ランチの後、3時間目は“ASSERTIVENESS”（積極性）自信を持って、自分の考えを主張すること、を学んだ。AGGRESSIVE（攻撃的）でもなく、PASSIVE（消極的）でもない、常に ASSERTIVE であるためには、まず他人の話をよく聞いて理解し、じっくりと話し合っていくことが大切である。4時間目はそれに関連して、“DECISION MAKING（決定）と PROBLEM SOLVING（問題解決）”について話し合われた。問題が起きたとき、どのようにしたら ASSERTIVE な態度で解決していかれるのか、具体的な状況を例に意見が交わされた。2日目最後の授業は“性病とホモセクシャル”について。性病の話の中には HIV/AIDS に

関しても簡単に触れられた。ホモセクシャルについては、人それぞれのチョイスを尊重し、差別をしてはいけないことなどの話があった。生徒からは“同性同士ではどうやってセックスをするのか”という質問も出た。

エイズの基礎知識と予防

3日目にはいよいよ本題である HIV/AIDS についての基礎知識と予防法についての授業があった。HIV の感染経路やウィルスが身体に引き起こす変化、AIDS の状態、どのように対処していけばよいのかなど、2時間を使って詳しく説明された。そして、ファシリテーターのノントレから、今回のプロジェクトの意義とピア教師の果たす役割について話があった。このプロジェクトの成否は、ワークショップに参加した一人一人の活躍にかかっていることを改めて強調し、生徒達を激励した。また学校においてどのような形でプロジェクトを進めていくか、生徒達から様々なプランが発表された。ランチの後は“セーフセックスと禁欲”についての授業があった。メディアでは“コンドームを使用しよう”と呼びかけ、コンドームを使用すればセックスしてもよい、という印象を与えかねない。ここでは、“あなた方はまだ若く、セックスには早すぎる年齢です。セックスは興味本位でするものではありません。信頼できるパートナーを得るまで待ちましょう”と強調された。最後の授業では“INFECTED（感染した）と AFFECTED（影響を受けた）人々をどのようにケア、サポートするか”を話し合った。教師からは、“我々は皆、何らかの形で HIV/AIDS の影響を受けている。他人事ではなく、常に身近な問題として考えることが大切である。そして何より、感染した人たちを差別したり、中傷したりしないこと。万一自分が感染してしまったら、一人で悩まず信頼できる人に相談すること”などと話があった。

日本の政府とNGOに感謝

最後にノントレが、今回のプロジェクトは日本政府とNGOの援助によって実現したことを説明した後、生徒の代表から“日本の皆さんありがとう”と感謝の言葉ももらった。私は日本側を代表し、“とてもいいワークショップになった。参加してくれてありがとう。学校に帰ってプロジェクトを推進して行って欲しい。学校訪問を楽しみにしている。”と伝えた。その後集合写真を撮り、解散。

全体の印象として、生徒達の知識の豊富さと理解度の高さ、積極性に感心した。まさにピア教師として適任といえる。学校に帰ればたくさんの“無関心”な“知識の低い”クラスメート達がいることだろう。ピア教師達にはぜひリーダーシップを発揮して、プロジェクトを進めて行って欲しいと願っている。教師達も十分な準備をしてきており、授業は大変興味深いものとなった。プロジェクトに対する期待が大きいことを改めて感じた。

ワークショップ第二部（NDWEDWE EAST-CENTRAL 地区）は、4月28-30日にンシャバンコシ・ホールにおいて行なわれた。

2003年度ハウテン州教育省教育図書館報告 1

車種: 三菱、日産、いすゞ 車両状態: 良好 開始: 1999年

対象地域: 南アフリカ共和国ハウテン州

地域の社会的・経済的背景:

- ・ 生徒の大半は農村部あるいは不法居住区に住んでいる。
- ・ 大半の生徒の家族は貧しく、社会的交流も身近な範囲にとどまっている。

対象校: ハウテン州北部の小学校 27校 対象生徒数: 8 334名 教師の数: 225名

プロジェクトはどのように役に立っていますか?

- ・ 生徒達は、教師を介して本をかりている。識字力を高め、本を読む習慣を根付かせるために、英語や母語で書かれた小説を読むことが奨励されている。
- ・ 貸し出された本や教材は教室に保管され、生徒達が宿題の学習や読書に利用される。
- ・ 教師への貸し出し冊数には制限を設けていない。

プロジェクトは地域に直接または間接的にどのような変化をもたらしましたか?

- ・ 図書館から本を借りた子ども達が本を家に持ち帰ることで、親達も図書館サービスへのアクセスが得られるようになった。

親達を含めた地域の人々にプロジェクトはどのように認識されていますか?

- ・ 親達は学校に対する当サービスに非常に感謝している。
- ・ 地域の図書館も移動図書館車で一緒に学校を訪問できる。

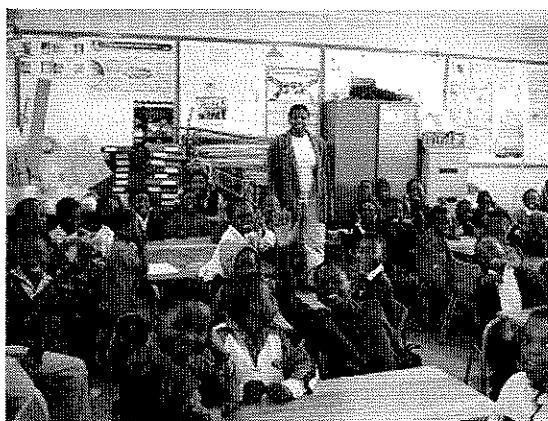
運行資金の供給者 ゼネックス基金 ハウテン州教育省

過去2年間でどのように発展してきましたか?

- ・ 9校が追加され、合計 33校を巡回している。2003年度の貸出率は平均 72%。
- ・ 司書技術の訓練が全ての学校で実施された。
- ・ 2003年にダーバンで開催された学校図書館司書国際連合会議において、移動図書館車事業がハウテン州における最優秀賞を受賞した。(久我祐子 抄訳)



気に入った本を借りる ハウテン州



教室の子どもたち ハウテン州



教師も借りる手続きをする



MEIの車内で、蓮沼氏(南ア ソニー社長)

2003年度メソヂスト教育イニシャティブ(ME I) 移動図書館報告 2

車種: 三菱 車両状態: 良好 開始: 1997年

対象地域: デベトン、エトワトワ

地域の社会的・経済的背景: デベトンは古くからある人口密度の高い郊外。比較的設備の整った小規模な学校が近距離内に点在。エトワトワは不規則に広がる郊外で大部分が不法居住区。学校は非常に生徒数が多く設備が未熟だが、現在著しく改善されている。

対象校: 35校 対象生徒数: 32,754名 教師の数: 998名 1校につき平均30名

プロジェクトは生徒達にどのように役に立っていますか?

学校には図書設備が全くないので、移動図書館車が唯一の手段となっている。

プロジェクトはどのように学校に貢献していますか?

- ・ 楽しむための読書を奨励している。
- ・ 一般知識の本を提供
- ・ 先生の教える技能の向上

プロジェクトは地域に直接または間接的にどのような変化をもたらしましたか?

この地域では、現在の生徒が図書館の本を手にする最初の世代である。プロジェクトは恵まれな
い地域の学校が恵まれている学校のレベルに近づく手助けとなっている。

親達を含めた地域の人々にプロジェクトはどのように認識されていますか?

前の世代は教育を非常に重んじているので、自分たちの地域でバスが定期的に訪問することを
名誉に思い歓迎している。

運行資金源 アジア・アフリカと共に歩む会 セント・アンドリュース基金

過去2年間でどのように発展してきましたか?

訪問学校数は、28校から35校に増えた。現在図書館車は地域の全ての小学校に巡回している。

2003年西ケープ州教育省ウェストコースト/ワインランド 3

車種: 日産 車両状態: 良好 開始: 2003年

対象地域: プレデンダール

地域の社会的・経済的背景: 非常に貧しい農村部

対象校: 24校 対象生徒数: 1400名 教師の数: 48名 1校につき2名

プロジェクトはどのように役に立っていますか?

- ・ 先生に教材を提供することで、授業での教え方や学習内容を改善している。
- ・ 生徒たちは図書館のない地域に住んでいるので、移動図書館車は読書を識字力を高める手段になっている。

プロジェクトは地域に直接または間接的にどのような変化をもたらしましたか?

- ・ 成人学習者が本を利用できるようになった。彼らの多くは読み書きを学んでいる母親や父親なので、彼らが自分たちの家庭を良くすることで、間接的にコミュニティーを発展させている。

親達を含めた地域の人々にプロジェクトはどのように認識されていますか?

- ・ プロジェクトの存在を喜んでいて、積極的に手伝ってくれる。

プロジェクトはいつ始まりましたか?

- ・ これは新しいプロジェクトで昨年開始した。12月にバスを受け取り、現在は第一段階で運行している。

2004年度の事業計画(2004.4-2005.3)

(第1段階) ・6校巡回する。 ・教材用の資金獲得。 ・書庫の教材の整理、配布。 ・成人学習者の奉仕プログラムを企画。

(第2段階) ・6校追加 ・コミュニティーの学習者を取り込む。 ・CDや教育用ビデオなどの教材を増やす。

(久我祐子 抄訳)

2003年エルギン移動図書館報告 4

団体名:エルギン学習基金 西ケープ州教育省 車種:日産 車両状態:良好

対象地域: グラボウ 開始:2002年

地域の社会的・経済的背景: 貧窮した農村部の学校

対象校: 9校 対象生徒数: 2389名 教師の数: 合計68名

プロジェクトは生徒達のどのように役に立っていますか?

- 学校には図書室がなく本も少ししかない。
- バスの訪問毎に先生たちは15冊までかりることができ、教室で利用される。
- 本・教材は、カリキュラムを改善し、読解力の向上に利用されている。

親達を含めた地域の人々にプロジェクトはどのように認識されていますか?

- 移動図書館車はよく知られている。定期的に行っているため、人々は来るのを待っている。農地労働者は恵まれない境遇にあったため、彼らの中には、子供たちが家に持ち帰る本が、生まれて初めて見る新しく興味をそそる本という人もいる。

2004年度の事業計画(2004.4-2005.3)

下記のための資金集め

- フルタイムの司書と運転手を雇う。 • 教材購入
- 車両の良好なコンディションを維持し、毎日より多くの学校を巡回できるだけの教材用の資金獲得。

対象学校数を増やしたい。「お話し会」「国際図書日」などの教育関連の特別行事でも移動図書館車を活用することを計画。(久我祐子 抄訳)

2003年度カンナランド移動図書館報告書 5

(注 カンナランドは、西ケープ州の中央に位置し、Ladismith、Calitzdorp、Zoar、Vanwyksdorpの町を含む農業地域である。この報告書は「ソアール移動図書館プロジェクト」(会報32号、2003年6月)と同じ移動図書館車に関するものである。)

この移動図書館は、2つの託児所、3つの小学校、1つの成人教育のグループを1日単位で巡回する。

過去6ヶ月の間に、12,350冊の本をさまざまな教育機関の利用者へ貸し出した。移動図書館のおかげで、学習者の読むこと、話すこと、書くことについての能力は大幅に改善されたと言えるだろう。現在、学習者や地域の人々は良い本や読書を通して得られる知識の大切さに気付いている。学習者は他の学習者とどれだけ多くの本を読むか、またどれだけ良く読めるかを競い合っている。ライブラリアンと運転手はよく働き、優れたチームとして協力している。(山縣睦子 抄訳)



移動図書館車に来る、とはしゃぐ子どもたち



図書館車と車庫と書庫 エルギン

TAAAの活動に参加して

蓮沼 忠 (南ア ソニー社長)

現在、ソニーの南アフリカ現地法人勤務しており、高校の先輩を通じ、野田さんの知己を得ました。南ア文部省の成人識字教育プロジェクトに関与していたので、識字教育に少々興味を持っておりました。平林さんと図書館車に乗り、小学校を巡ると、先生方の啓蒙と子供達の読み書き習得に大変なインパクトを与えているのが、実感されます。現地に居りますので、微力ながらTAAのお役に立ちたいと思います。

(ご紹介: 今春2月に一時帰国された蓮沼さんに初めて東京でお会いしました。南アで5年、仕事をしてくられ、南アにおける教育の必要性を痛感され、協力したいというお申し出をいただきました。その後、南アのTAAA移動図書館を訪問、移動図書館車輸出の手続き上の問題解決に熱心に動いて下さっています。先日の帰国時には埼玉県立熊谷図書館まで訪ねて下さいました。これからどうぞよろしくお願いたします。 野田千香子 記)

移動図書館報告書の感想

久我 祐子

アンケート形式作る

2003年度のプロジェクト報告書はアンケート形式にしました。移動図書館車が訪問する学校数が増え、サービスの質も充実し、貸出方法の効率化を図るなど、順調に推進しているようです。

教師の技能も高める移動図書館

教科書さえ不足している劣悪な教育環境下で、移動図書館車サービスがいかに授業内容の改善や読書力向上に貢献しているかが、レポートから読み取れました。生徒だけでなく先生の読解力や教える技能を高めることにも積極的に係わっている様子です。アパルトヘイト時代の長年の教育劣化を考えると、教師への支援は不可欠なのでしょう。移動図書館車が巡回する地域の多くは、非常に貧しい農村部や郊外で、親達は教育を受ける機会に恵まれなかった世代です。

住民は、子供達の教育を支援するプロジェクトを喜んで受入れ、積極的に手伝って

れているようです。

コミュニティーにも馴染む

学校だけでなく、成人学習者にも本の貸出を計画している団体もあり、プロジェクトがコミュニティーに馴染み、根付いていく様子がうかがえます。

きめ細かなMEIのサービス

特に、6年間コミュニティーに根付き地道に活動を続けているMEIの報告書が印象的でした。伝統的に読書をする習慣のない地域に、“楽しむための読書”を根付かせようとしています。先生も生徒も授業に関係のある本は借りるが、直接関係のない本は借りようとしないので、読書を楽しむための図書を奨励したいと。訪問校や本の冊数を増やすなどの量の拡大だけでなく、地域の本質的な問題点に見据えて、きめ細やかなサービスの質の向上を努めようとするのは、コミュニティーに根付いたNGOならではの仕事の仕方だと思いました。



白人の豪邸にため息、ガラスの破片の上で遊ぶ子どもに涙

日本の若者たちの見た南ア！

野田千香子

4月1日フジテレビ“あいのりスペシャル”をご覧になった方いらっしゃいますか。日本の若い男女数人がお互いにカップルになることを求めて世界を旅して回る“バラエティ”番組。今回の旅先は南アフリカ共和国。近代都市の後ろにテーブルマウンテンが聳えるケープタウン市。「わーっ！きれい！」を連発する日本人男女。関心の対象は美しい風景と車中の日本人の恋人探し。ガイドの白人男性の家に案内される。高台の邸宅、庭園を見て、一同ため息をつく。

翌日、意外な展開に。白人のガイドが僕の友人の家、と言って連れて行ったところは黒人居住区(タウンシップ)。ケープタウンに隣接する広大なタウンシップ。低い狭い小屋が並ぶ。未舗装。ゴミと下水が溢れる中で裸足の子どもが遊ぶ。日本の若者の表情から笑みが消え、言葉も失った。前日訪ねた美しい町並みと豪邸にうっとりし、日本人の相手探しに気を取られていた彼等が突然泣きそうな顔になる。黒人のお母さんたちが苦勞して作った幼稚園の子供たちと楽しく交流しこの日は終わる。ここで、番組はアパートヘイト、タウンシップについて2～3分の説明を入れるので、視聴者も白人の豪邸と黒人居住区の低い小屋の格差の原因を了解できる。

白人のガイドのドミニカさんが語る。「僕は学生時代反アパートヘイトのデモに参加し

ていた。この国はまだ複雑な問題を抱えている。僕は黒人居住区にしょっちゅう来ている・・・。教育の格差が問題だ・・・」(企業経営者でお金持ちのお父さんの邸宅に住んでいる彼は“複雑”という言葉を連発していました。)

次の日、日本の若者たちは再度、タウンシップを訪れます。幼稚園の周りの生ゴミ、危険物を片付け始めます。日本の若者は「自分の無力さが情けない」と涙を止められない。若い女性は靴を脱いで裸足になる。子どもが裸足でガラスのかけらの上で遊んでいるのに、自分が靴を履いていられなかったのでしょうか。タウンシップの人たちも見慣れたゴミの山を一緒に片付け始める。幼稚園の回りのゴミは片付けられ(といってもゴミ置き場があるわけではないので、袋に入れ重い建材の下に押し入れた)、子供たちは少し安全に遊べるようになった。

タウンシップへ入る道中は美しい並木道です。4年前の南ア訪問時にTAAAの移動図書館車の責任者であるジューン・パーチェスさんとこの道を通った際の彼女の言葉を思い出した「夜にはこの木の下にいれば若い女性が立つの。クッキー1箱分の代金で・・・」



◆ 主な活動(2003年1月21日～5月15日)

1/21 南アへ到着 平林薫
 1/23 住所ラベル入力 西村裕子
 1/27*2/10 会報 34号編集 山田玲子
 1/28 県立図書館より本引取り 北爪健一
 1/28 移動図書館報告の英文書式を作成 久我祐子
 1/29 JICA説明会出席 安部弥生
 2/5 JICA プロジェクトのワークショップ訪問(ドウエド
 ウエ) 平林
 2/6 ELETミーティング
 2/11 清泉インターナショナルスクールへ本引取り
 村泉巨竹
 2/12 南アへ送金 野田千香子
 2/13 西町インターナショナルスクールへ本引取り
 山下八千穂 山下忠男
 2/14 一時帰国の南ア・ソニー社長の蓮沼氏及び田所誠
 三氏と会見 野田千香子
 2/15 作業と会議 下谷房道 西村 北爪 山田
 日名徹一 野田
 2/17 ハウテン州教育省図書担当ドラマミニ女史とミーテ
 ィング 平林
 2/19 JICA打ち合せ会 千葉 安部 野田
 2/20 会報発送 井出利栄 井出千亜紀
 2/26 各州教育省図書館担当者のミーティングに出席
 (プレトリア) 平林
 3/1~3 ELETミーティング
 3/4 MEIへ3822冊発送 野田
 3/5 15箱を倉庫へ搬入 増山久一郎
 3/2~5 JICA事業計画書・積算書等を提出 安部 千葉
 3/6~月末 南アからの移動図書館報告の翻訳
 久我 山縣睦子
 3/8 清泉インターナショナルスクールへ本引取り
 下谷 北爪
 3/9 ソニー蓮沼氏とMEIプロジェクト訪問 平林
 3/11 ハウテン州ドラマミニ女史、ソニー蓮沼氏とミーテ
 ィング 平林
 3/11 パンフレット印刷 野田
 3/11 JICAへ報告書提出 安部 野田
 3/12 ELETミーティング 平林
 3/14 作業と会議 西村 野田 浅見克則 北爪
 下谷 日名
 3/12 「JICAフロンティア」誌の取材を受ける 野田
 3/16 富士見市図書館より元所有者証明書受領
 北爪

下線は南アにおける活動

3/23 JICA プレトリア事務所にてミーティング 平林
 3/27 ソニー蓮沼氏とMEIバントレイ氏宅を訪問 平林
 3/29 ダーバンへ引越し 平林
 4/6 清泉インターナショナルスクールへ本引取り
 山下八千穂 山下忠男
 4/7 富士見市図書館へ 北爪
 4/10 2003年度決算書作成 安部
 4/10 運動靴引取り 北爪
 4/12 千葉愁子さん青年海外協力隊への壮行会
 安部 野田 千葉 関根章博 浅見 村泉 下谷
 4/13 南アのソニー社長、蓮沼忠さんが野田宅へ 会合
 野田 安部
 4/13 蓮沼さんが県立熊谷図書館へ 移動図書館につ
 いて話合い 北爪
 4/15 JICA2004年度事業契約(ELET エイズ教育)
 野田
 4/15~16 ELETにおいて作業 平林
 4/18 作業と会議 野田 西村 関根 北爪 浅見
 安部 下谷
 4/21~23 JICA事業のワークショップ訪問 平林
 4/26~30 ELETにおいて作業 平林
 4/27 南ア新生10周年記念レセプション(新ングバネ南
 ア大使来日) 野田
 5/3~7 ELETにおいて作業 平林
 5/4 ホームページ更新 大久保忠人
 5/5 南ア・HIVホスピス展示会にて根本神父とお話し
 久我 野田
 5/6 ELETの農業プロジェクト訪問 平林
 5/10 ハウテン州移動図書館車プロジェクト訪問(プレト
 リア) 平林 蓮沼
 5/12 JICAプロジェクトの学校訪問 平林
 5/13~14 ELETにおいて作業 平林

南ア直輸入健康茶レイボスティ

1パックをヤカンに入れて煮立て、夏場は冷やしてお
 召し上がりください。売上の一部は活動費になります。
 レイボスティ(1箱80パック)
 5箱で1万円(税・送料込)
 4箱以下...1箱2000円(税込み・送料500円)
 ハガキ、ファックス、e-mailで、名前、住所、電話、
 箱数をお知らせください。